笠原が3位入賞　マススタート

笠原、軍司がW杯に

全日本スピードスケート距離別選手権大会＝10月25～27日、長野市・エムウェーブ

スピードスケートのシーズン開幕を告げる全日本大会が行われ、マススタート（16周）で笠原光太朗（経営3・帯広三条高）が、8分29秒35のタイムで3位に入賞した。1000㍍では軍司一冴（経営2・白樺学園高）が1分10秒32で5位となり、笠原とともにワールドカップ（W杯）第1、2戦の出場権を獲得した。

また、ジュニア部門では辻本楓芽（経営1・白樺学園高）が500㍍と1000㍍を制し、両種目でジュニアワールドカップ第1戦の出場権を勝ち取った。

笠原は、W杯と合わせて11月のISU四大陸スピードスケート選手権会（青森県）の出場権を得た。今大会を振り返り、「チーム専修として挑み、軍司、辻本が世界大会を決めるなどチームの成長を実感した」と話した。自身については、「2年連続でW杯の代表に選出されてとてもうれしいが、レースは全く満足のいくものではなかった。今回の課題をしっかり修正し、日本代表の名に恥じぬよう、全力で戦いたい」と意気込みを語った。

（倉林光琉・法1）

軍司は、「納得のいくタイムではなかったが、なんとかW杯出場を決めることができて良かった。シニアでは初めての国際舞台なので、挑戦者として持てる力を全て使って滑り抜きたい」と挑戦心をあらわにした。

（倉林光琉・法1）

伊藤、西田、高原が準優勝

60kg級　67kg級　82kg級

全日本大学レスリンググレコローマン選手権大会＝10月23～24日、世田谷区・駒沢公園屋内球技場

5人が入賞し、団体でも4位と躍進した

60kg級で伊藤翔哉（文4・鳥栖工高）、67kg級で西田衛人（経営4・韮崎工高）、82kg級の高原崇陽（経済3・高山西高）がそろって準優勝。3人が日本一を決める全日本選手権大会（12月、東京都）の出場権を手にした。

西田は、「優勝を目指していたので悔しい。学生としての大会は残り少ないので、悔いの残らないよう、最後まで貪欲に勝ちにいく」と意気込みを語った。

なお、ほかにも2人がベスト8入りし、入賞ポイントによる団体戦は、昨年度の7位から順位を上げ、4位と躍進した。

健闘した部員たち

剣道男子8強入り

団体の大学日本一を決める全日本学生剣道優勝大会が10月14日、大阪市・Asueアリーナ大阪で行われた。専大は、1回戦で長崎大に勝利すると順調にトーナメントを勝ち上がり、準々決勝に進出。惜しくも日体大に敗れたものの、ベスト8入りと健闘した。

3季連続の2位

東都大学野球秋季リーグ戦（2部）＝9月2日～10月29日、川崎市・等々力球場ほか

全日程が終了し、専大は9勝6敗・勝ち点4で3季連続の2位でシーズンを終えた。

最終戦（10月29日、拓大3回戦）を前に優勝の可能性は消滅したが、意地を見せた。西里颯（経済4・興南高）の逆転満塁弾などで9得点。自身も2安打を放った主将の小柴滉樹（経営4・佼成学園高）は「気持ち的に難しかった中で、最後まで頑張れたのは大きかった」と複雑な心境を明かした上で「本当に良いチームになった。4年次生を中心に、下級生もやりやすい環境を作れた」とこの1年を振り返った。

個人では、首位打者に輝いた松永知大（経済3・創成館高）がベストナイン（外野手）に選出された。

（萩原健丸・経営3）

最終戦で逆転弾を放つ西里　撮影＝大石真碧（文1）

日本学生選手権水泳・OWS競技

女子5㌔　山本が8位

8位入賞の山本（左）と久保田

日本学生選手権水泳競技大会（インカレ）のオープンウォータースイミング（OWS）競技が10月13日から14日まで、千葉県館山市の北条海岸で行われた。

OWSは、海や川などの自然環境で行われる長距離水泳競技で、昨年からインカレでも実施されている。

女子5㌔に山本純奈（文2・浜名高）と久保田萌生（経営1・常総学院高）が出場。山本が昨年から1分以上タイムを縮め、1時間10分06秒で8位となった。

スポーツ研究所公開シンポジウム

元Jリーガー 中村憲剛さんら招き 大学スポーツの役割を議論

大学スポーツの役割と未来像を考えたシンポジウム

専修大学スポーツ研究所（佐藤満所長）の公開シンポジウム「日本スポーツの前進に大学スポーツは何ができるのか」が10月24日、生田キャンパスで行われた。

パリ五輪の総括をテーマにした第1部では、ボクシング部の原田周大さん（法4）とバレーボール部の甲斐優斗さん（経営3）へのインタビューを、元NHKキャスターの三須亜希子さん（スポーツ研究所特別研究員）が行った。

原田さんは「会場全体がお祭りのような雰囲気で、各国の選手を温かく迎え入れてくれた」と現地の様子を報告。甲斐さんは「楽しく思い切ってプレーすることができた。次のロス五輪への気持ちが強くなった」と振り返った。

また、日本スポーツ振興センター理事でハイパフォーマンススポーツセンター長の久木留毅さん（元文学部教授）は、包括的に選手をサポートするトータルコンディショニングの考え方を紹介した。

第2部は、元サッカー日本代表の中村憲剛さん、CPサッカー日本代表監督で大学サッカー日本代表監督経験を持つ李宇韺文学部教授も加わり、飯田義明経済学部教授の進行でパネルディスカッションを行った。

中村さんは自らの学生時代を振り返りながら、「自分が望む自分になるための選択、決断が成長を促す」と伝えた。李教授は、日韓の大学スポーツの相違を説明しつつ、長期スパンでの育成の重要性を説いた。

学生ら約250人が熱心に耳を傾けた。ゴルフ部に所属する石垣光琉さん（文1）は、「プロの世界で長く活躍した中村さんから、挫折や引退についてリアルな話を聞けたのが良かった」と話した。

大学経由でプロ入りした自身の経験を語った中村さん

パリ五輪の現地での様子を笑顔で語る原田さん（左）と甲斐さん

地域とともに　社会貢献活動

文・齋藤ゼミ　川崎市スポーツフェスタに参加

オリジナルスポーツは、ラグビー強豪校でプレー経験のあるお笑い芸人・しんやさんと共に考案した。

バスケットボールとラグビーを組み合わせた「バスビー」では体育会に所属する学生たちがゴールを守り、攻撃役の子どもたちと一緒にボールを追いかけた。

もう1種目はさまざまな競技のボールを的に投げ入れて得点を競う「グリーンマウンテン」。的の中央でボールがピタリと止まると、周囲から大きな歓声があがっていた。発案者の中莖実南さん（文3）は、「いろいろな種類のボールに触れることで、スポーツが持つ幅広い魅力を感じてもらえたと思う」と充実の表情を見せた。

オリジナルポスター制作ブースも大盛況だった。スポーツ雑誌風に希望する子どもの写真を取り込んでその場で印刷。世界にひとつだけのポスターに仕上げてプレゼントした。

オリジナルスポーツのバスビーでゼミ生と子どもたちが一緒にボールを追う

しんやさん（右から3人目）と記念撮影